

志太マンドリン

第11回 定期演奏会

平成10年12月6日(日)

焼津市文化センター

開場 13:30

開演 14:00

・ 入場無料

ギター

アン

サン

ブル

ル

演奏曲目

第1部

路傍にて
花まつり
幻想曲第1番

第2部

若者たち
ふるさと
ポピュラーメドレー
大地讃頌
モルダウ
ペールギュント組曲より
朝
アニトラの踊り
山の魔王の宮殿にて

主催：志太マンドリン・ギターアンサンブル
後援：焼津市教育委員会 藤枝市教育委員会
岡部町教育委員会 大井川町教育委員会

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ PROGRAM ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

第1部

路傍にて	T.Toci
花まつり	Mario Maciocchi
幻想曲第一番	久保田 孝

第2部

若者たち	佐藤 勝
ふるさと	岡野 貞一 編曲 加藤 元士
ポピュラーメドレー	
サウンド・オヴ・サイレンス	
イエスタデイ	
コンドルは飛んでいく	
トップ・オヴ・ザ・ワールド	
大地讃頌	佐藤 眞
モルダウ	B.Smetana
ペールギュント組曲より	Edvard Grieg
朝	
アニトラの踊り	
山の魔王の宮殿にて	

ごあいさつ

本日は、お忙しい中、私たちの演奏会に御来場いただき誠にありがとうございます。

昨年「藤枝マンドリンクラブ」から「志太マンドリン・ギターアンサンブル」と名称を変えて活動の場を広げ、より一層皆様方に愛されるクラブとなるよう頑張ってきました。

そして、「志太マンドリン・ギターアンサンブル」としての定期演奏会を焼津文化センターで開催することができ、たいへん嬉しく思っております。

これもひとえに皆様方の温かいご支援のたまものと厚く御礼申し上げます。

精一杯演奏をさせていただきますので、日曜日の午後のひとときをマンドリン音楽でお楽しみください。

尚、本日の演奏会は入場無料のチャリティーコンサートとなっております。

これまで同様、皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。ご厚意はすべてご支援いただいた各福祉協議会に寄付させていただきます。

末筆となりましたが、これからも地域に根ざした愛される楽団となるよう一層の努力をし、活動いたしますので、今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

(部長 記)

曲 目 解 説

★路傍にて *Serenata Nella Via*

作曲者であるトルクワート・トーチについては詳細が不明。R. Maurriの出版番号から推測して古い、初期の頃活躍していたと予想されるが他の曲も見当たらない。

曲は6/8のセレナータ。当時のイタリア、フィレンツェあたりのマンドリンの興隆期は夜ともなると通りのここかしこでマンドリンを奏でる人、それを聞く人でにぎわっていたという。

★花祭り *Ouverture Floralia*

マリオ・マチョッキは1874年にローマで生まれ、1955年パリにて没。幼少から音楽の才能に優れ、18歳のときにはローママンドリン五重奏団の指導的地位にあった。その後ローマのセチリア音楽院で作曲を学び、1900年にはフランスに移住し、オーケストラの指揮者を務め、1905年以降はパリでマンドリン音楽の普及、向上に努力した。「ミルタリア」、「水車小屋の恋人たち」など800を超えるマンドリン作品を作曲したが、同時にクラシック音楽のマンドリンオーケストラへの編曲も数多く残した。

花祭りは「花の都、パリ」という位、花の大好きなフランス人が長い冬を越し、春を迎えた喜びをお祭りにして楽しんでいる情景を思い描かせてくれる。

☆久保田孝について

1942年東京に生まれ、明治大学卒業後三石清一氏に指揮法を師事。1968年旧西ドイツ国立カールスルーエ大学指揮科を経て、ウィーン国立音楽大学指揮科を卒業、1974年帰国。日本の各交響楽団を指揮する一方1976年より7年間「青少年音楽祭」にてマンドリン部門の指揮を担当。現在は奏法、作曲、指揮等で日本のマンドリン界の育成にも力を注がれている。

★幻想曲第一番イ短調 op.22 久保田 孝

幻想曲とは形式にとらわれず、楽想のおもむくままに書かれた楽曲を指すが、その内容は時代によってことなっている。例えば16～17世紀の器楽曲では、対位法的書法を厳格に保持していたリチェルカーレに対し、比較的自由的な作曲をファンタジア（幻想曲）とよんでいた。

本日演奏する幻想曲第1番は、文字通り「幻想」的な雰囲気漂わせる現在の楽曲で、特にマンドリンオーケストラの為に作曲された為、それぞれの楽器の特徴をうまく引き出している。演奏者の立場からすれば、非常に技巧的な部分が多く、作曲者 久保田孝 氏の数ある楽曲の中でも学生、社会人を問わず人気のある曲の一つとなっている。

曲は、力強く、深く響きのあるゆったりとした主題によって幕を開ける。主題はこの後、形を変えて幾度か繰り返されることとなるが、その重厚な旋律は、これからやってくる何かを暗示しているかのようである。

やがて、曲はその性格を変え、急激に早くなり、急ぎ立てられているかのように展開する。この場面では、中抜き3連符の軽快なリズムが繰り返され、それに答える形で、トレモロによって奏でられる妖しく優雅な旋律が流れ出す。このような展開を繰り返し、やがてクライマックスへと向かう。それは、曲自身が明と暗、あるいは喜怒哀楽を表現し、生き物の様に振舞っているようにも感じられる。

言葉で表すと以上のような感じだが、この曲自身がもつ独特の雰囲気は、聴く人それぞれに色々な物を想像させる。本来、幻想曲が持つ「自由な発想」を皆様も楽しんでください。（マンドラ 橋本記）

★ペール・ギュント組曲より

エドワード・グリーグは1843年に生まれ、1907年逝いたノルウェー最大の作曲家。作風は郷土色の強い旋律と感情の細かな叙情性、渋い和声が特徴である。ペール・ギュントは同じノルウェーの文豪イブセンが自国の伝説にもとづいて書いた戯曲であり、その主人公の名である。この劇音楽の全22曲から抜粋して各4曲ずつで2つの組曲をつくり「ペール・ギュント」組曲として出版された。

☆朝

劇中では第4幕の前奏曲。ペールがアフリカに渡って、ある朝モロッコの海岸から昇る太陽を眺めている平和な朝の風景です。

☆アニトラの踊り

ペールはアラビアの砂漠のオアシスでベドウィン族族長の娘アニトラの踊りに魅せられます。その黒髪に小麦色の妖艶な姿態の踊りはペールの心を虜にしまいます。

☆山の魔王の宮殿にて

ペールは巨人トロールになることと、山の魔王の醜い娘と結婚することを拒んで逃げたが、家来の鬼につかまり宮殿につれていかれ、まさに殺されそうになる。1つの特徴ある反復主題により、次第に音量が増大して、かん高い不気味な音楽となる。かくして山の妖怪たちがペールをいじめ、迫害するさまが、手にとるように感じとられる。

STAGE MEMBER

指揮

石川 伸行 (第一部)

* 長谷川 淳一 (第二部)

1st Mandolin

◎ 鷺山 正二

渋谷 一子

村松 美雪

堀江 典子

池ヶ谷 恭江

* 石川 寿摩子

鈴木 和美

2nd Mandolin

◎ 鷺山 美知子

松本 はる江

提坂 実代

増田 和美

高宮 五百子

大鐘 吉裕

中村 敏子

* 加藤 彰洋

Mandola Tenor

◎ 武村 佳子

服部 正子

増井 綾子

橋本 佳典

Mandolncello

◎ 米村 文子

有倉 典子

池ヶ谷 英伸

Guitar

◎ 田沼 邦夫

長谷川 雅美

服部 誠

堀井 謙二

一橋 信夫

石川 伸行

田沼 まち子

村松 信子

Contrabass

鎌田 博司

Flute

* 渡辺 克広

Clarinet

* 杉浦 香織

Percussion

* 新谷 高男

* 岩崎 千波

* 賛助奏者

司会者

安達 由美子

あなたもマンドリンを弾いてみませんか！

志太マンドリンギターアンサンブルでは、部員を募集しております。
初心者の方には、マンドリンならびにギターの講座もごさいます。

練習日：毎週木曜日 (19:30～21:30)

練習会場：藤枝市生涯学習センター

連絡先：TEL. 054-643-7586 (鷺山)